団体名：名古屋水域活用研究会（仮）
活動名：舟遊び・舟運による水辺の活性化

日　時：令和2年　10 月24 日(土)　　10 時00分　～　14 時00分
場　所：宮の渡し桟橋～（堀川）～五条橋下流（沖正商店）

◆団体の紹介◆

残存している舟運遺構を具体的に再現利用して、活用の可能性を探る。まちづくり活動団体と連携を図り、歴史文化や街道愛好家などに堀川や中川運河、七里の渡しを活用して乗船できる航路の検証と調査をしていく。

■活動の内容■

当日は風はあったものの、お天気にも恵まれ舟運の遺構確認にはふさわしい日となりました。

集合場所の七里の渡しには、本日乗る予定の船がスタンバイしていました。なんと桑名から直接舟で乗り入れられたとの事。
その後、周辺で活動されている団体の方が見送りに来て下さる中、七里の渡しから堀川をめぐる舟が出航しました。

風を受けながら、堀川の水上から見る景色は新鮮で、まちづくりの魅力を伝えるのにも新しい PR の方法だと思いました。

途中で何度かくぐり抜ける橋の説明を聞きながら、熱田から白鳥公園を通過し金山を過ぎて納屋橋の方に向かいました。
そこからは、都会の雑踏を身近に感じる事が出来るとともに、川幅も狭くなり両脇の堤防が近づいた感じです。

以前使われていた、家から川への連絡口が閉鎖されていたり、堤防で完全に遮断されていたりする箇所も何か所かあり、折角の川の文化に根づいて築き上げてきた川との歴史が寸断されているようで寂しい気がしました。

沖小商店の倉庫に到着して、納屋橋との間にかかり荷上場の確認と水深を確認。その後納屋橋の桟橋に船をつけ、乗船が出来るかの環境と水深を確認。

途中から名古屋市の職員が 2 名参加して、名古屋城の近くの朝日橋まで乗船して確認後、旋回して沖正商店に戻り下船して終了しました。

今後は他の川にも乗り入れながら、調査を進めていくとのこと。最終的には一般の人が電車ではなく気軽に川を利用して移動できるような仕組み作りが実現する事を期待しています。

新しい名古屋の観光誘致と川の活用につながると思います。